

## 第6回 エキサイトよこはま22懇談会議事要旨

日 時：平成27年5月29日（金）17時から19時

場 所：横浜アイランドタワー 10階大会議室

### 1. 開会

(横浜市 鈴木副市長)

開会あいさつ

まず事務局から議題に沿って内容の説明をさせていただきます。まずはリーディングプロジェクトである西口が本格的に工事着手していく。東口についても都市計画決定に向けて様々な議論が進む状況で新たなまちづくりの機運が高まってきている。これらは本当に横浜にとって重要なプロジェクトでございますので、皆様の協力を得ながらスピード感を持って取り組んでまいりたいと思っています。

特に27年度以降の取り組みについては、皆様の忌憚のないご意見を賜って、今後のプロジェクトの進行に反映させていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

### 2. 議題

(横浜市) 事務局からの議題説明

「エキサイトよこはま22のこれまでの経緯と今後の取り組みについて」

平成26年度の主な取組

- ① (仮称) 横浜駅西口駅ビル等 都市計画決定
- ② 鶴屋橋架け替え 本格着工
- ③ 国家戦略特区 区域計画素案
- ④ 横浜駅東口地区（ステーションオアシス）開発推進協議会の開催等
- ⑤ 防災の取組
- ⑥ エリアマネジメントの推進
- ⑦ 横浜市の計画（中期4か年計画・都心臨海部再生マスタープラン）

平成27年度以降の取組・検討事項

- A 基盤整備の推進
- B 民間開発の促進
- C 官民連携のまちづくり

以上説明を行った。

(エキサイトよこはまエリアマネジメント協議会 初代会長猪俣氏)

横浜駅西口振興協議会及び横浜駅西口周辺地区整備協議会の事務局長として「横浜駅西口での取組み」についてご紹介します。まず、振興協議会の主な活動ですが、日韓ワールドカップ、開港150周年イベントなどで特製のカウントダウンボードを設置し、広く告知させていただきました。横浜ベイシェラトンホテルの2階有効空地では、クリスマスツリーに地元の子供たちに装飾をしていただきました。

JR横浜駅に東西中央自由通路が開通したのを機に振興協議会で西口中央階段にエスカレーターを4基設置し、保守管理を実施しています。また西口生誕40周年を記念し、西口ロータリーにJRさんにご協力をいただき、警備派出所を整備し、県警に寄贈しました。

西口の生誕50周年事業として、平成18年から戸部警察、西区さん、JR横浜駅さんなどと月2回防犯パトロールを実施しており、9年間で174回、のべ4641名の方が参加しています。

次に整備協議会ですが、横浜の中心市街地にふさわしい街にするための基盤整備と日常環境整備を行う組織として振興協議会が主体となって周辺のビルオーナー、自治会、関係行政機関が一体となって昭和56年に設立されました。整備協が主体となって横浜駅西口周辺の基盤整備を実施し、横浜市所有地は横浜市に移管し、JR敷地については整備協で整備した特殊舗装や植栽枠の維持管理等を行っています。

西口は、奥行きが狭く、段差も多く、バリアフリー化が遅れています。公共空間が絶対的に不足しており、にぎわい創出の場、災害時の滞留の場が全くございません。

今後のまちづくり、再開発の中で官民が連携して創出していただくとともに、はまマネ協議会の中でも議論していきたいと思っています。

東口振興協議会とも連携し、役割分担を明確にしながら新たな仕組みを再構築し、官民が連携したエリアマネジメント活動を実施していきたいと考えております。

関係者のご理解、ご支援のほどよろしくお願いします。

(国土交通省水管理・国土保全局 加藤下水道部流域管理官)

先週水防法の改正がありまして、その説明でございます。施行は2か月後になりますが、簡単に説明させていただきます。

昨今は、高潮、内水洪水など対策を行っていますが、それを超えるような状況が起こっている。対策が施せるような体制を組んでいくために法改正を行っています。

具体的にはこれまでの雨を超えるようなことが起きることを想定し、下水管があふれる前に下水道管理者に伝達する仕組みです。それによって避難計画を作っている自治体が早急に対応できるようになります。

また、下水道法も改正されまして、内水で80ミリということが想定される中で、公共側で下水管を整備することだけでは間に合わないといった場合、民間にも雨水貯留槽施設を作っていただきますが、管理が民間で難しいといった場合に条例で区域を決めていただいて、下水道管理者が民間に代わって管理できる制度です。この場合でも直接国が民間の建設に対し補助ができるという仕組みでございます。

下水管の中に民間の方が熱交換できるシステムをこれまででは、設置できなかったが、法改正し民間が下水管の中に熱を取る媒体を設置し、地域冷暖房などに使っていただけるような規制緩和でございます。

どれも安全で環境にやさしい取り組みですので、横浜市にぜひ活用第1号になっていただきたいと思っています。

## ■質疑、意見交換

(横浜市 鈴木副市長)

事務局から議題の説明ありがとうございました。いろいろご発言等あろうかと思いますが、挙手をお願いします。

(鶴屋地区街づくり協議会 倉知理事長)

鶴屋地区街づくり協議会の倉知です。2点ほど質問をさせていただきます。

鶴屋橋について、現在架け替えの工事が行われていますが、左右歩道が5mほど拡幅されて、竣工後は人の流れが多くなることが予想されます。鶴屋橋から北口へ行くところの

アプローチの一番狭いところが2m強で、鶴屋橋が5m拡幅されても駅からそこを通るわけですから、行きつくまでには2mの細いところを通らなければならない。折角拡幅されているのですけど、なかなかたどり着けない。

完成した後は車も通りますから、この狭いところの混雑が予想されると思います。

昨年同じような質問をさせていただいていますが、是非川の全面的でも結構ですが一部でも蓋をかけるか、隅切りをして、できるだけ駅前広場を広くとるような方向性を是非地元としてもお願ひしたい。

1年前のこの懇談会で、神奈川県と協議をします。県も交渉の窓口を開けて、交渉のテーブルにつきますということでしたので、是非この一年間の交渉の進捗、経緯・成果がありましたら是非教えていただきたい。

もう一点目は、平成30年に鶴屋橋が完成し、供用されるということですが、地元としては現在切り回しなどするなど混乱が起きているなかで、皆さん我慢しているのは完成したらとてもいい橋になるということを考えているからです。是非この場で、鶴屋橋の架け替えと駅前開発が一体と考えて、鶴屋橋を架け替えしたらそれで終わりということではなく、完成してから対応すると仮設などまた予算もかかるので、鶴屋橋が完成する前に蓋かけであったり、隅切りであったり、或いは駅前開発であったり、この3年間の間にぜひ駅前の整備の方向性を示していただきたいと思います。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。事務局の方からお願ひします。

(横浜市都市整備局 奥山担当理事)

一つは昨年度のとおり、河川の上を使って 歩行者空間を豊かにならないかということは、神奈川県も相談の窓口を開いていただいている、昨年度神奈川県と具体的な協議に入っています。

まだまだ解決しなければならない課題があるのですが、実現に向けて協議を進めている状況です。もう少し詳しくお知らせできる段階になったらお知らせします。

それから駅前広場の整備と鶴屋町全体のまちづくりを一体に考えることは私どもも同じことで、今年から駅前広場に面している街区をどうしていくのという議論を皆様と始めていく予定です。

それに合わせて鶴屋町をどうするのかという議論を進めさせていただく予定でございます。

(鶴屋地区街づくり協議会 倉知理事長)

地元のどなたに聞いてもここは狭いと言われている方が大半でございます。是非力強い交渉をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。事務局のほうもしっかり調整させていただきます。これに関しては県から何かございますか。

(神奈川県県土整備局 志村河川下水道部長)

神奈川県でございます。市の方からお話をあったとおりとおりでございますけれども、市におかれでは、今年度さらにいろいろと検討を進めいかれると伺っておりますので、

市の検討内容を逐次お示しいただきながら、きた西口エリアのまちづくり全体として歩行者動線をどのように確保していくのか、市のお考えをうかがいながら協議を進めてまいりたいと思っています。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。

(横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発準備組合 中山理事長)

中山でございます。当地区の再開発事業については日ごろからご協力を賜りありがとうございます。

私どもからは質問ご要望を3点ほど申し上げます。

まず、国家戦略特区に関してですが、昨年私どもを構成員として関与させていただきました。早期の事業の完結のためにも改めて規制の緩和をお願いします。

昨年この席で市の規制緩和も必要があるというコメントをいただきました。

東口では環境アセスの規模要件の緩和がありますが、当地区でも前例がない形でのスケジュールの短縮、各種手続きの緩和などぜひともお願ひいたします。

2つめは、私どもの再開発は国家戦略特区のみならず歩行者デッキの整備、タクシー乗り場の整備など一体都市計画に十分寄与できると考えております。東京オリンピックを控えて工事費の高騰が言われておりますが、事業成立には補助金が不可欠であり、十分な投入をお願いします。

3点目として、倉知さんからお話を合ったように鶴屋橋の架け替え工事でございます。先日総会がありましたけれども、来街者が減っているという話が出ました。

わたくしも先日、「橋はどこにあるの」と聞かれまして、表示があまり良くなくてよくわかりません。案内がよくわかるようご配慮をお願いします。

きた西口駅前広場の狭さ解消のために、河川の蓋かけ以外にいい知恵があればいいのですが、神奈川県の方にはぜひご協力をお願いしたい。

最後に付け加えますと、私は横浜で生まれ横浜で育ち働いてきているが、鶴屋町に住んでいます。

横浜駅は工事が長く続いている間で、横浜駅はサクラダファミリアだという方がいらっしゃって、これからもルミネの改修や馬の背解消など、長期にわたることが予想されます。

工事期間中、特に西口ですけども最大の問題点は綺麗でないことです。

これから建築ですけども、仮囲いひとつとってもデザイン性のあるものにしてほしい。仮囲い以外でも何か見せる方法があると思うのですが、横浜の地盤沈下が進んでいるのは間違いない、横浜駅のイメージダウンは横浜全体のイメージダウンになると私は思っています、是非長く続く工事期間中に何とかしてほしい。横浜の発展を願います。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。

(横浜市都市整備局 奥山担当理事)

国際戦略特区を活用した開発については、国の方とも調整の意向を進めてまいりましてなるべく早く進めていきたいという国の意向もあります。

そういう意向を踏まえながら皆様との合意形成を含めてスピード感を持って対応ていきたいと思います。

2つ目の補助金導入の可能性につきましては、具体的な開発収支計算について横浜市側と具体的に調整させていただいてやっていきたいと思います。

3点目の鶴屋町工事中の案内看板については駅から見てわかりにくいことが人の往来を減らしているとのご心配があるかと思いますが、この工事については横浜市の工事ですので、歩道を通って行けば鶴屋町方面と駅双方にきちんと行けると分かるようなきちっとした案内看板を出していくと考えております。

それから工事期間中の対応ですが、駅の周りでは様々な事業・工事が展開されていきますので、工事が切れる期間は少ない。

そういう中で工事期間中、きれいな街にしていくことは重要な観点だと思いますので、横浜市が中心となって事業者と話しながら、極力皆様にご迷惑がかからないような形で進めてまいりたいと思います。

ただ非常に狭いところでの工事になりますので、一時通行止めにする、大回りをして頂くなどご不便をおかけしますが、事前に皆さんにお知らせしていくよう調整してまいります。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。出来るだけきれいに工事をしてください。

(東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 有山執行役員品川・大規模開発部長)

横浜駅西口駅ビルは東京オリンピックが開催される2020年に開業したいということで、昨年都市再生特別地区の都市計画決定をしていただきました。現在皆様にご迷惑をおかけしておりますが、現在非常に工事費が高騰しているというなかで、事業的には非常に厳しいところですが、横浜を代表するプロジェクトであることは十分認識しておりますので、関係者とのご協力をいただきながら、本格的な着工に向けて準備を進めている次第です。

今月末には暫定的に営業させていただいている店についても閉店をして撤去工事や準備工事に入っていくと考えております。

シアルを閉じたときにもいろいろご意見あります、仮囲いについても横浜の歴史を示すパネルとか、あるいは周辺の地図をパネルに出すとか、対応しております。

今回の工事についてもできるだけ早く開業するとか考えています、皆様にご迷惑をおかけしますが、少しでも快適になるよう仮囲いの活用含めてまた皆様にご相談しながら進めてまいりたいと思います。

私どもとしては大事なプロジェクトと考えておりますので、関係者のご理解を得ながら進めてまいりたいと思っています。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。

(横浜駅西口振興協議会 千原副会長)

本日は2点お話をさせていただきます。まず西口駅ビル計画が、この秋からに本格的に動き出してくれるとの説明がございました。明るく開放的なアトリウムや災害時を想定した地域防災拠点の設置など、西口での新たな機能の形成を楽しみにしております。

是非、工事の進捗状況や、歩行者の動線など地域に重大な影響を与える可能性のあるものについては、早めに地元に情報開示行って地元の方々との意見交換の場を持っていただくようお願いします。

一方、協議会の会員である私ども相鉄アーバンクリエイツは、馬の背解消事業主体者でもあります。横浜駅を利用される方や商業者の方に迷惑がかからないよう、JRさん、横浜市と連携をとり、工事期間中に来街者の足が西口から遠のくことのないよう安全面、環境面の対策に十分配慮しながら事業を進めてまいりたいと思います。

先ほどのお話にありましたように、横浜西口エリアの玄関口である横浜駅西口駅前が長期間に亘って工事現場となり、仮囲い等で視認性が悪くなるなど、駅前の商業者をはじめ西口エリアの商業者は強い危機感を持っております。

鶴屋橋の架け替えによって、来街者が減っていると鶴屋地区の商業者の方からもお聞きしております。

商業者のお願いといたしましては、環境対策の一環として誘導案内、誘導告知等を強化していただきたいと存じます。私どもも肝に銘じて行いますので関係者の皆様におかれましてはご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

もう一点としては、鶴屋地区の再開発事業でございます。これも西口振興協議会のメンバーでもあります私ども相鉄アーバンクリエイツが再開発準備組合の事務局となっておりまして、現在準備組合の皆様と施設計画等の検討を進めております。この再開発計画につきましては準備組合が国家戦略特区の東京圏区域会議の構成員に選ばれ、今後行政等の手続きに入っていくところでございます。先ほどの資料では「東口では特区の指定を契機に、環境アセスの規制要件を緩和しました」とありましたが、鶴屋町地区をはじめとして西口についても特区の趣旨にのっとった各種手続きや要件の緩和や簡素化等によりまして、横浜駅周辺の開発が誘導されることが必要だと考えます。

横浜駅周辺が国内外から人が集まる国際都市に成長していくことで、都市間競争に勝ち残っていくためにも行政をはじめとする皆様にもご理解、ご協力をいただきながらご尽力をいただきたいと思います。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。西口について再三話題がありましたので、JRさんお願ひいただけます。

(東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 有山執行役員品川・大規模開発部長)

相鉄と歩調を合わせて馬の背解消や広場の整備など関連する事項が多いところでございますが、皆様と引き続き調整を進めたいと考えております。状況に応じ皆様に工事、切り回し等ご説明させていただきたいと思います。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。

(横浜市都市整備局 奥山担当理事)

JRさんの説明のとおり、西口駅ビルの工事につきましては開発工事にあわせて相鉄様に工事していただく馬の背の解消工事もございますし、将来駅前広場関係の工事もございます。

あるいは今施工中の鶴屋町の工事も関係する。本市の方で関係する事業関係者に集まつていただいて施工計画だとか工程調整するなどやっている最中でございます。その中で関係者の確認が取れ次第速やかにご説明をさせていただきたいと思います。

それから、鶴屋町関係の特区に関しては、先ほどのお話のとおりでございまして、関連する市の規制緩和については、アセスだけでなく、駐車場をはじめこの際様々な緩和など

を合わせて検討しているところでございますので関係される方には節目でご説明させて頂きたいと考えております。

(横浜市 鈴木副市長)

はい、どうぞ。

(神奈川区青木第二自治会町内会連合会 澤会長)

神奈川区の澤です。鶴屋町に居住していますので、住民の立場としてお聞きしたいことがございます。

JRの計画である西口駅ビルや鶴屋地区の再開発がございますが、西口駅ビルは発表されているので大体わかるが、鶴屋町の方はについて施設計画はどうなっているか、実際にどの程度の計画というか、設計等がされているのか、そういう情報を聞きたい。

また、最初からこの会議に参加し、最初からお願いしているが、特に交番の設置をお願いしており、計画が分からないと不安である。国家戦略特区ということで相鉄さんが開発するということであるが、居住空間ができるとお聞きしていますので、住民が多くなれば交番の設置を再三お願いしており、こういう状況になってくるとその辺の回答を頂戴したいと思います。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。

(東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 有山執行役員品川・大規模開発部長)

再三にわたり恐縮です。

図版を見ていただくと駅前棟と鶴屋町棟になります。駅前等についてはかなり設計をやっついて工事の準備をしております。鶴屋町棟はこのように駐車場、駐輪場、あるいは保育所一部店舗と計画しております。

ほぼ同じ時期に開業と考えております。ということで、若干計画だとか設計とかをまだ進めている状況でございます。

澤さんのおっしゃった交番の設置については地元説明会等でも承っておりまして、私どもとしてはいろんな協力ができるかなと思っておりますが、行政、警察などのご意向と調整しながらでないと、きっちり決まったものにならないかなということで横浜市様と関係者と、或いは地元の皆様のご意向をうかがいながら何ができるのか、出来ないかといった形でご議論させていただいており、もう少しお時間をいただき、横浜市の指導を仰ぎながらご相談をさせていただければと考えています。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。交番については事務局から。

(横浜市都市整備局 奥山担当理事)

この件についても地元説明会等で聞いておりまして、現在の状況は都市整備局と区役所と連携して、警察と話を始めたところでございます。

協議状況についてここでお話しする訳には行かないでの、詰めていく中でいろいろ課題が出てくると思いますので、状況が分かり次第ご説明させていただくつもりです。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。

(相鉄ホールディングス株式会社 取締役執行役員 滝澤経営戦略室長)

相鉄ホールディングスの滝澤です。西口では横浜駅西口駅ビルの開発や駅前広場の改修工事等、目に見える形で変わろうとしております。相鉄グループでは、2013年から「Change! Project」としてジョイナス、ザ・ダイヤモンドの改修に順次取り組んでおり、若干ではあります、横浜駅西口の活性化に寄与させていただいているのではないかと思うところでございます。さらには、馬の背解消工事により、中央自由通路からザ・ダイヤモンドに直接行けるようにし、お客様の利便性向上を図ってまいります。

また、昨年の6月には「横浜西口元気プロジェクト」を設立し、地域や行政の皆様とともに横浜駅西口のにぎわい創出、活性化に引き続き取り組んでおりますが、その中では、民間がアイデアや実行を担い、一方、行政にルールを作っていただくななどし、我々をバックアップしていただければと思います。その際には、前例にとらわれず、官民がそれぞれの役割をしっかりと果たせるようにし、国際都市横浜としての先進的な取組みを実現し、内外に発信していかなければと思います。

(横浜市 鈴木副市長)

十分我々も全く同じ考え方でおりますので、行政としての役割しっかりと果させていただきます。ありがとうございました。

(横浜駅西口地区市街地再開発準備組合 中山理事長)

一年ぶりの懇談会の出席です。

これから27年度に何をするかは初めて聞きました。ここに集まって委員をさせていただいているが、懇談会においては、横浜駅周辺の開発の話と思っていますが、最初のエキサイト計画はそれぞれの地域だけで開発が進められていたのを全体でどうとらえるのかということだと思います。

その基本となるのは、どういう特徴をつけるのか、どういう街にするか、全体として。本日も新たに山下地区と、東神川臨海地区が新たに入ったということで都心臨海部再生マスターープランができたが、まだ何も決まっていない。

実は今まで話してきた横浜駅周辺地区、みなとみらい地区、関内地区この重点地区に役割を持たせようと。今後この2つにどんな役割を持たせようとするのかと。

同時に横浜市はMICEと言っていますが、これはエリアマネジメントにすぎない。つまり我々は子供のころから国際都市と言っていますが、国際交流と言っていますが、何が国際化なのか、非常にこれは国際化していないと。

日本全国の視点からすると横浜というのは非常にイメージがいい。先行しているわけです。しかし中身は大変残念だけどもまだまだ、ばらばらであります。

小林先生にお願いしたいのは、細部の話でなく全体の話をしてほしい。もう一度考え直した方がいいのではないかと。

そのための会合ではないかと思うわけであります。

ですからいろいろイベントがあるわけですが、MMからサッカーがなくなったと。高いからなくなったと。しかし娯楽施設とかスポーツとかはもう少し身近なものでいいのではないか。

身近にそういうものがあるのがこれからの都市の在り方ではないかなど。なぜそういうことを言うかというと、インフラが、交通がここに集まっているからだと。来やすいところにそういうものを作るのがいいと思っているわけです。

今までいろいろな考え方でやってきました。物流の考え方として地下通路を作りましょうとかやっていますが、しかしそれはそのままになっている。

西口の再開発の理事長をやっていますが、これができるかは非常に重要な問題であります。

それから今まで言われている横浜駅西口、西口北広場ということは言われているが、西みなみ駅前広場は一度も言わされていない。30年から横浜市と駅前広場が無いので、ほしいとずっと言ってきた。

現在のエキサイトよこはまにうたわれていません。それもぜひ入れていただきたい。

河川というのはここでうたわれているのは景観と環境ですが、それだけではない。何度も申し上げたが、防災上非常に役に立つと。かつては、雨が多く降ったとき岡野町から消防車が一台も来られない状況、ましては地震が起きたら道路が遮断されるでしょう。

救急車も、消防車も来られないと。なぜ河川を利用する考え方がないのかと。

それから地区内に貯留施設を作れと言っているが、非常に小さい。河川を利用すれば、幅と水深を考えると内水をいかに素早く河川に放流するか…。

それではまとめまして、JRさん、ほかの事業者さんもそうですが、ビルを作るということは他の商業者さんに迷惑をかけて作っていることを理解していただいたうえで、やっていただきたい。

馬の青解消の工事が始まる時に考えていただきたいのは、横浜駅前の通行道路はたった2.5mしかない。それではこれだけの人数をさばけません。出来ましたら右側の交番の前まで、開けていただいて、そこから人々が表に出られるようにして頂きたいと思います。

今、裏でユニクロが商売やっていますが、昔は出来たばかりの横浜駅は商業施設ではなかった。空間だった。そこはぜひよろしくお願ひします。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。

(横浜市都市整備局 奥山担当理事)

大変貴重な意見有難うございました。一つは河川の関係でいろいろな議論が必要と考えています。

もう一点については、JRさんの工事だけでなく、様々な工事が絡んでいくので、市が中心となって工事計画など整理がきちっとできた段階で、皆様の方にご説明し、ご理解いただいた上で修正できるものは修正していただいて進めてまいりたいと思います。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。それでは時間の関係もあると思いますので、議論をそろそろまとめていきたいと思っていますので、何人かの方にわたくしの方から指名をさせていただきますので、コメントよろしくお願ひします。

(独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部事業推進部 石垣担当部長)

URの石垣でございます。何人かの委員の方々からの建設費についてご意見が出ていますが、昨今ご存知のとおり工事費が大変高騰しているというところです。我々も横浜市や事

業者さんとどうやって克服するか議論をしているところでございますが、やはりこれはなかなか特効薬がないという状況で、官民連携し知恵を出し合って克服していくしかない課題かと思っています。

冒頭副市長から、今年度は具体にどう動かすかという局面に入っているとお話がありましたが、工事費の問題についても、ぜひ横浜市、委員の皆さんと知恵を出し合いながら解決に向けて進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。続きまして学識の先生方から一言ずつ頂戴したいと思います。

(横浜国立大学 北山教授)

北山です。アーバン部会の座長やっています。

今日のお話は、それぞれの関係者はそれぞれの利益最大化を狙っているわけですが、また都市というものは全部連携しながら都市の魅力を作っていくものですから、全体の調和を求めてテクスチャーというものを考えていく必要がある。

横浜の駅というものは横浜に来たときに、プライドを感じられるような駅にする必要があるって、どこにでもあるきれいな駅ができるのではなくて、「横浜に来た」と感じられる駅にする必要があると思います。

もう一つは事業の話、工事に入っていくなかで、コストを優先して建物は出来ていくわけですが、素材形態等について、横浜である、海が近い、海風があるといった、横浜という都市にふさわしい建築を作っていくということもぜひ誘導していきたいと考えている。JRの高層棟もそういうことが検討されていて、東京の渋谷地区再開発のカーテンウォールでできているようなつるんとしたものではなくて、横浜らしさを表現してほしい親和性のあるデザインにしてほしいとお願いしてまいりました。

西口には公共の広場が無い。人々が座って都市広場としていられるような場所を作ることが大事であると思っていて、横浜に降りたときのそういった都市のやさしさを作りたい。看板とか、夜に降りたときの明るさとかそういう都市要素のコントロールがある。

もう一つは、東口の海に向かう方の駅がどうなるか。横浜は歴史的に海に向かっているのであるが、海につながっていく感覚が非常に大事ではないかと思っています。

横浜は湾を中心とした都市になっていくと思いますので、そこを大事にしてみなとみらいにつながっていく都市を作っていくことを考えていく必要があります。

南デッキが線路の上を繋がっていくというのはすごく大事なところで、地下だけでつながっているというのは災害時に非常に問題が多い。やはり上空でつながっていくことで素晴らしい都市になる可能性がある。

それから公共空間をどうたくさん作るかということ、南デッキを作ることで少ない公共空間を皆が使える公共空間をどれだけ作るかということだと思います。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。

(日本大学 岸井教授)

基盤部会の方のお手伝いをしております岸井でございます。少しづつ事業が進みつつあって、今日はこの地域をリードしていただいている方が一堂に会していらっしゃるので、2つほどお願ひをしたいと思います。

一つ目はこれから時代の節目でもある、2020年の東京オリンピック・パラリンピック対応です。西口、東口が2020年の時にどのような形になっているのか、それを共通に持って、2020年にどのような対応をするのか、そろそろ議論しだしたほうがいいかなと思います。2016年リオが終わりますと世界のメディアもいよいよ東京に日本に目が向いてまいりますが、そういう機会に横浜はどうなっているのかと、ちゃんとした発信をしたいと思います。

二つ目は、とはいえる2020年は単なる通過点に過ぎないということではないだろうかということです。横浜の変化はまだまだ続くわけでございまして、オリンピック前に横浜の市庁舎もできるということでございますが、山下も変わってくるでしょうし、相鉄も変わり、その前後に様々なものが動き出でてしまう。そのすべての中心である横浜駅はやはりショーケースのような、横浜駅と山下、横浜駅と関内、横浜駅とMMというように常に横浜駅を中心と考える戦略を持つべきと思っています。

基盤その他についてはまた引き続き検討をすすめてまいりますので、今後ともよろしくお願いします。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。

(横浜国立大学 小林名誉教授)

それでは私から何点かお話をさせていただきます。

一つはエキサイトよこはま協議会の会長が就任され、すぐにその効果が表れた。会長がこの街づくり活動をどのようにやってこられたかを発表され、色々なことをやっていることがわかった。大変いいことだと思っています。

さらに、トップが一堂に会して集まっている中でエリマネ活動を紹介されたということは大変いいことだと。

どういうことだというと私は全国のエリマネ活動にかかわってきたが、5年、10年関わっていくうちにトップの方の関心が段々衰えてくる傾向があります。

大手町・丸の内・有楽町も実はそういう状況があります。企業のトップの方がお前ら何やっているというような感じになってしまふのです。

このような場で発表されることで、さらにエリマネ活動が組織的に動いていくことが大事だと思います。大変良かったと思います。

2つ目は国土交通省から洪水関係、環境問題のご紹介がありましたが、例えばソフト対策として事業者が下水道に熱交換機を設置できるなどといったことも、個々の事業として取り上げるのではなく、地域の方々とお話をしながらやることが大事なことだと思います。

清掃活動、防犯活動、イベント活動というのがこれまでのエリアマネジメントでした。しかし、これからはエリアマネジメントというのは、環境エネルギー問題、それから防災、減災という2つのテーマが中心になる。

そういう新しいテーマのひとつ今日の国交省からご紹介いただいた、再生可能なエネルギーの活用の仕組みではないかと思います。

是非横浜が先頭を切って、組織を介してこういうことを具体的にできる。そういうお話を是非進めていただければと思います。

第3点目は、新しい都心臨海部再生マスタープランが13ページにありますが、横浜駅広域ターミナルというところが、海からなんなく引っ込んだ形になっているが、海に近いというのは非常に横浜らしい空間で、これをどうやって引っ張り出して海につなげていくか、ということを考えるべきで、図が悪いのか駅が相当海から引っ込んだところにある

よう見えてしまう。そうではなくどうやって引っ張り出して臨海部をつなげていくか、ということを考えるという手だてを考えてほしいと思います。

それからもう一点だけ申し上げますと、URが全体のプロジェクトマネジメントのような動きをやっておられると理解していいと思います。

先日もURの中部支社の方とお会いし、今名古屋駅前で多数の大規模工事をやっていますので、名古屋駅前でプロジェクトマネジメントをやられたらどうかというお話をしましたが、まさにこの横浜ではすでにそういう先端に行っているのではないかと思います。是非そういうお気持ちで新しいURとして、プロジェクトマネジメントの働きをしてほしい。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。それでは地域を代表する形でお二方お願ひします。

(横浜駅西口振興協議会 鳥居会長)

横浜大改造計画が始まって、はや8年が経ちました。この間、周辺地区の人口減少といった変化もございますし、東京がブラックホールとしてすべてを飲み込んでしまい、横浜の地盤沈下を引き起こしてしまう状況でございます。

そのためにどうするかというと魅力あるものを作っていく、そのためには民間としても努力していく次第でございますが、民間ではなかなかできない部分もございますので、これについてはぜひとも行政にもご支援等をお願いしたいところでございます。

特に昨今建設費も上がってございまして、昨年来から30パーセントあがっておりますが、そうすると新しい開発になりましてもほとんどペイしないという状況でございます。マンションを作りましても全然ペイしないということでございます。

あえて申しますと横浜駅周辺につきましては、川崎、湘南、あるいは日本橋、六本木、渋谷、新宿とある意味大変な競争をしているわけでございます。

都市間競争のみならず、西口周辺は、河川の治水問題、公共空間の不足、バリアフリーの未整備などの課題もありこれらの課題の解決に向けた実現可能な諸施策のご検討と早期着手をよろしくお願ひいたします。

再開発については民間として全力を尽くして取り組んでまいりますが、行政につきましても国家戦略特区の活用や具体的な支援となる諸制度の新設など民間事業者が開発を推進しやすい環境を整えていただきますよう、ご協力のほどよろしくお願ひしたいしだいでございます。

(横浜市 鈴木副市長)

ありがとうございました。

(横浜駅東口振興協議会 小谷会長)

東口の協議会の会長を仰せつかっている小谷でございます。

確かに東口は西口と異なり生活のにおいがしない街でございます。企業さんばかりで性格が異なるのですけども、歴史的、地勢的にいっても西口は東口の兄貴分でございます。

西口のリードで私どもの東口協議会も策を練っている状況でございます。

基盤整備の推進における東口再編ということで、3つのコンセプトが示されました。駅前広場、南デッキ整備、栄本町線の支線一号の整備と、具体的に決まっておりませんけども平成28年度都市計画決定を目指すということですが、こういう大きな事業については地域の声に耳を傾けて魅力あるものにしてほしい。

それから都心臨海部再生マスタープランという説明がありましたが、一日 200 万人の乗降客を抱える日本有数の駅でございますが、今後横浜の成長を支える重要な役割を担っていると思っております。

特に、東口は臨海部の入り口として位置づけられ、今後マリノスタウンの再開発とか、M I C E の整備拡大計画、I R の整備など、これは臨海部の整備に属しているわけですが、これを横浜市さんはどうするのと私どもは思うわけですが、オリンピックまでにやることがたくさんあるわけですが、横浜市さんと一緒にやっていこうと思う次第でござります。

さっき鳥居さんがおっしゃいましたが、ハードの方ばかりではなくて、ソフトの面でどうやって横浜駅、駅周辺にお客さんを集めてくるかということも大事なことではないかと。最近はインバウンドと称して外国の方が、大勢来ておりますけれども、ほかの大都市に比べますと横浜に来ているのは少ないんじゃないかと危惧しておりますし、羽田から人をどんどん連れてこないと他都市に負けてしまうといったことも考えていまして、これも西口、東口の振興協議会が協力し合っていかなければならないのですが、行政当局のご指導ご協力の方をお願い申し上げましてわたくしの意見とさせていただきます。

(横浜市 鈴木副市長)

皆さま、貴重なご意見ありがとうございました。これをきちんと整理しまして、エキサイトの推進に生かしていきたいと。思うところでございます。

### 3. 市営交通について

(横浜市交通局 松田工務部長)

市営交通の中期経営計画について説明

(神奈川区青木第二自治会町内会連合会 澤会長)

急行はどこかで追い抜きがあるのか、昨日の新聞に出ていたのは何分で走りますといったことだけだったので、前の車両を追い抜く場所があるのか、お聞きしたい。

(横浜市交通局 松田工務部長)

上永谷という駅がございまして、そこは車両基地に接続する関係上ホームが 2 面 4 線ございます。そこで快速電車が、各駅停車を追い抜くということで考えてございます。

(神奈川区青木第二自治会町内会連合会 澤会長)

関内駅では出来ないのですが、あそこはホームが二つあると聞いているのですけど

(横浜市交通局 松田工務部長)

2 階、3 階とそれぞれ上り下りのホームがございまして、ただ大規模な駅改良をしないと線路がつながりませんので、今回はなるべく投資することなく運用で快速運転を導入したというところでございます。

(横浜駅西口地区市街地再開発準備組合 中山理事長)

防災の点で、地下通路といろいろございますが、浸水対策として、臨海部は全部 T P を測っているのでしょうか。

(横浜市交通局 松田工務部長)

横浜駅周辺はTP1m前後であり、地下鉄の出入り口付近に海拔表示をさせていただいております。

(横浜駅西口地区市街地再開発準備組合 中山理事長)

そうなりますと、エキサイトよこはま計画では、ビルは1階レベルをTP2.9～3.2でギリギリ計画しているということなのですね。どの入口から入ってもつながっていますので、大きな災害になる。

夫々の入り口を見ると止水板の一つもないということなのですね。ですからできればそういうものを電動式に下から1mと、あるいはそうすれば内側から人が超えて出られますし、水も何とか食い止められるのだろうと。

地下鉄はチューブでつながっているから水が入れば全部だめになってしまいます。これから大水害を考えるとぜひとも対策を考えてほしい。

(横浜市交通局 松田工務部長)

貴重なご意見を賜りました、今後の検討にあたり参考にさせていただきます。

(横浜市 鈴木副市長)

それではお時間も過ぎておりますので、都市整備局長から議論の総括として一言お願いしたいと思います。

(都市整備局 平原整備局長)

都市整備局長平原でございます。貴重なお時間ありがとうございました。地元の企業者、商売をやられている事業者、そして地域にお住いの方々という形で、多岐にわたったご意見を賜りました。

また先生方からも貴重なご意見を賜りましたし、鳥居会長、小谷会長からも大変貴重なご意向をいただいた次第でございます。

同じ課題でも、それぞれの立場、見方によっていろんな角度に見えるということだと思います。

それを関係者の総意として、円満に解決するのが、横浜市の役割かなということを改めて感じたところでございます。

話変わりますが今年2015年ということで、今からちょうど50年前の1965年に横浜市の6大事業というのを発表させていただきました。都心臨海部の強化事業は、地下鉄や高速道路ですか、ようやく50年経って、横浜の骨格が出来てきたのかというところでございます。

そんな節目の年にとて私どもとしては、都心部の再生、郊外の再生という柱を立てまして、更なる街づくりを進めてまいろうということで、横浜市都心臨海部再生マスタープランを作成させていただきました。

この中では都心部の役割、各地区の役割と定義しているところでございますけれども、皆さんのお話を聞いてみると、このマスタープランのPRが足らないのかなあと感じているところでございます。

おかげさまでみなとみらいのプロジェクトでございますとか、あるいは山下ふ頭の検討でありますとか、そういったところも着実に進めているところでございまして、今日はた

またまこのアイランドタワーの隣にできる新しい市役所に関する補正予算をいただいたところでございます。

着実に進めているということでは、そんなことでこの横浜の成長を支える成長エンジンということは変わりないということでございまして、引き続き今年の街づくりに取り組んでいきたいと考えております。

そういう意味で横浜駅周辺はいろんな意味で横浜の玄関口と言えると思います。

引き続き皆様のご協力をいただきながら進めてまいりたいと思います。

もう一つの節目としては、西口の着工ということをございまして、東口については来年度の都市計画決定に向けて一生懸命まちづくりを進めているというところでございます。

引き続き関係者のご協力をいただきながら、横浜の玄関口にふさわしい横浜駅周辺の街づくりを進めたいとお願い申し上げまして、簡単ではございますが総括とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

#### 4. 閉会

(横浜市)

閉会のあいさつ